

令和5年1月10日

調布市議会議長 小林市之様

提出者 文教委員長 鈴木宗貴

視察等共通部分報告書

下記のとおり、視察（~~研修~~・視察研修）を実施いたしましたので、
視察等個別部分報告書（第3号様式）を添えて報告いたします。

記

1 実施名称（テーマ）

令和4年度調布市議会文教委員会行政視察

2 実施期日（期間）

令和4年10月24日から令和4年10月26日（3日間）

3 実施場所（視察先・研修会場）

- ・愛知県名古屋市（名古屋市会）
- ・大阪府和泉市（池上曾根弥生学習館・池上曾根史跡公園）
- ・大阪府池田市（ダイバーシティセンター・石橋商店街）

4 実施目的

文教委員会所管事務について、他自治体の視察、事務調査を行う
ことにより、今後の市政に十分反映させることを目的とする。

5 参加者の氏名

- ・鈴木 宗貴 ・平野 充 ・木下 安子 ・澤井 慧
- ・丸田 絵美

6 実施結果（視察概要・研修概要）

・愛知県名古屋市（なごや子ども応援委員会について）

名古屋市教育委員会新しい学校づくり推進部子ども応援室，新しい学校づくり推進室，指導部指導室による説明。

【なごや子ども応援委員会の概要と特徴】

なごや子ども応援委員会は，学校と共に問題の未然防止，早期発見や個別支援を行い，子どもたちを支援する体制づくりを推進する。

なごや子ども応援委員会の活動は，1次予防，2次予防，3次予防に分けられる。

1次予防は，朝の登校見守りや，小学校4年生と中学校1年生を対象とした面談，心の授業や教員研修など広く対応している。

2次予防は，苦戦している一部の子どもたちへの支援を行っている。悩んでいる子どもについて議論する校内会議では，支援の専門家として様々な意見を伝え，学校としてよりよい支援に役立てていただいている。

3次予防は，問題を抱えた特定の子どもの対象に個別の相談対応やケース会議で定期的に最良の支援を探っている。

なごや子ども応援委員会の特徴は，大きく3点挙げられる。

1点目は，常勤のスクールカウンセラーなどの子どもを支援する支援の専門家を学校へ配置をしていること。

常勤のスクールカウンセラーは，教員と同じように，フルタイムで学校で勤務をしている。常勤であることで，朝の挨拶等から子どもの様子の違いに気づき，いち早く支援につなげることができる。また，ストレスマネジメントやアンガーマネジメントなどといった未然防止活動も常勤であるからできる取組である。

2点目が，多職種であること。

事務局校と呼ばれる各ブロック全体を見る組織には，スクールカウンセラーだけではなく，心理の専門家であるスクールソーシャルワーカー，警察官OBとしてのネットワークや知識を活用して子ども

もの安心・安全に貢献するスクールポリス，全体をうまく回すために様々な仕事を行うスクールセクレタリーといった専門職を配置している。

3点目がチームで対応していること。

12ブロックの全職員が週に1回集まり，案件の情報共有や支援の相談，議論をして，チームで，その子どもにとって最もよい支援の道を探っている。また，チームの中で，一人一人のスキルを高めるために研修を開催するなどしている。

【設置の経緯と成果について】

平成25年度に名古屋市立の中学生の命が失われる事案が起きたことを受け，アメリカでは学校で常勤のカウンセラーが様々な支援をしているということを知っていたことから，アメリカの実態調査を行い，こういった取組を名古屋でもできないかということで平成26年度より始めた。令和元年度に中学校全校に常勤のスクールカウンセラーの配置が完了した。

成果については，何を成果ととらえるかが難しいが，1つとして，職員が，子どもの支援をしてその案件が改善，または解消したとそれぞれの職員が判断したケースが，だいたい6割ぐらいある。

【職員について】

スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，スクールセクレタリー，スクールポリスで構成される。

総合援助職は，スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの両方の視点を併せ持つ職員である。令和2年度に定年制へ移行したことで，人材を育成する時間ができ，採用された段階ではスクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，それぞれの軸足はありながらも，もう少し広い視野で子どもの総合支援をするため設けた。

人材の確保について，なごや子ども応援委員会は人材が全ての組織であることから，すばらしい人材を全国から募るため，令和

4年度からの取組として、全国のカウンセラーを養成する大学院に募集案内を送るようにした。

12あるブロック間での対応に差がないようにするためのカウンセラー業務等の質の確保については、定期的な人事異動や研修を行うことで組織全体の底上げを図る取組をしている。

【不登校やいじめの未然防止について】

いじめの未然防止として、人権教育の観点に立った授業例や資料をまとめた「いじめ防止教育プログラム」を活用している。

また、「いじめ」「ない」「学校」の頭文字をとったなごやINGキャンペーンでポスターやシールの作成、全ての学校のスローガンが書かれたフラッグを作成し掲示するなどの取組を行っている。

インターネット上のいじめ対策としては、ネットパトロールとSNS相談を業者へ委託している。SNS相談は、小学4年生から高校生を対象に24時間体制で相談に応じている。アクセスコードにより学校と学年までが特定され、相談内容に応じてレベルが3つに分けられ対応している。レベルが低いものについても事務局、学校が情報共有しながら進めている。

不登校対策として、名古屋市では8つの施策を掲げている。

そのうちの1つで、新規事業である「校内の教室以外の居場所づくり」は、学校の空き教室を活用し、様々な理由で教室に入れない生徒が、教室以外の場所で学ぶものである。この居場所では、読書や工作、コミュニケーションの取り方を学ぶなど、勉強以外のことも取り組んでいる。そのため、空間のレイアウトは学校ごとに工夫して行っている。

現場では、当初様々な意見があったが、学校に来ることのできなかった子どもたちが学校に来るようになり、勉強に取り組めるようになってきた様子を見るうちに先生たちの理解も変わってきたと感じている。

【現状の課題等】

現在は、中学校全校にスクールカウンセラーを配置しているが、

ケースによっては中学校より前から悩みの種があることもある。しかし、小学校は非常勤のカウンセラーが週に1回の配置となっており、小学生の支援をどうするかが課題となっている。そのほか、予算的な課題がある。

【他機関の連携】

学校や警察，児童相談所，民生子ども課という福祉的な部署と連携している。

名古屋市立大学とは，様々な教育について協力していく協定を結んでいる。

— 名古屋市会にて —



・大阪府和泉市（池上曾根遺跡及び史跡公園について）

和泉市生涯学習部文化遺産活用課による説明。

【遺跡の概要について】

池上曾根遺跡は，和泉市の池上町，泉大津市の曾根町に広がる，南北に 1.5キロメートル，東西に 0.6キロメートルぐらいの範囲で，環濠集落の弥生時代の遺跡である。

今から 2,000年ほど前が池上曾根遺跡の最盛期であった。

明治時代に家の土堀から挟まった石を，当時中学生だった南繁則氏が見つけたことがきっかけとなり遺跡が発見された。

その後，大阪府立泉大津高校地歴部顧問の森浩一先生が生徒と共に調査し，大きな遺跡であることが分かった。さらに，昭和40年頃

に国道26号の計画が立ち、大規模な発掘が行われ、昭和51年に国の史跡に指定された。

池上曾根遺跡は、大型建物の柱の1つが紀元前52年に伐採されたことが年輪年代法でわかったという点も特徴の1つとなっている。

【整備の状況及び庁内の連携について】

1995年に第1期整備が行われ、史跡指定地の約3分の1が整備された。2001年には池上曾根史跡公園として開園した。

庁内の連携では、整備の面では建築部門や公園部門と連携して設計を行っている。また、観光については、観光の部署と連携し、大阪府の補助金を活用して多言語化の看板を作製した。

そのほか、史跡公園は散歩の利用者が多いことから、スポーツ振興担当と連携し、コースを設定するなど市民が活用しやすいものを考えて行っている。

【保存活用計画、再整備計画の経緯と今後の展望】

令和元年の文化財保護法改正によって、保存と管理から、保存と活用が重視されるようになり、池上曾根遺跡もさらなる活用を図るため、令和元年度から令和2年度にかけて泉大津市と共同で、史跡池上曾根遺跡保存活用計画を策定した。保存活用計画を踏まえ、令和3年度に史跡池上曾根遺跡再整備計画を策定した。

令和8年が史跡指定50周年、史跡公園開園25周年、和泉市の市制70周年にあたることから、令和8年を目標に未整備部分も含め史跡公園をリニューアルしていく予定である。

今年度は、多目的広場を造成するための基本設計と実施設計を作成している。

【地域の魅力向上、地域の魅力発信場所としての遺跡活用方法】

大阪府立博物館や泉大津市と連携した展示やイベントを実施し、市外、市内へPRしている。また、池上曾根史跡公園では、市が主催するイベントのほか、他の団体にイベント場所として使用いただいている。

コダイくんとロマンちゃんというキャラクターは、池上曾根遺跡

発掘調査で大型掘立柱建物と大型くりぬき井戸が発掘された衝撃でタイムスリップしてやってきたという設定でつくられた。現在は池上曽根遺跡のみならず、市のイメージキャラクターとして活用されている。

市民にとって身近な、愛着のある公園にするために、基本的に公園は常時開放している。一方で、安全面、防犯面の問題もあり、時間制限を検討している。

また、小学校での歴史の課外授業や遠足で来園いただいている。

【その他】

視察前に泉大津市立池上曽根弥生学習館を見学し、和泉市の職員から、展示されている池上曽根遺跡で出土した大型掘立柱建物の柱とくり抜き井戸の説明や、館内について説明をいただいた。

視察では、池上曽根弥生学習館内の会議室で説明を受けた後、場所を移動し、池上曽根史跡公園を視察した。公園内では、大型掘立柱建物等の復元等を見学した。各委員がそれぞれ市の職員から説明を受け、質問をするなどした。

— 池上曽根弥生学習館及び池上曽根史跡公園にて —



・大阪府池田市(学生による商店街空き店舗活用事業について)

市民活力部にぎわい戦略室商工労働課による説明。

【栄町商店街・石橋商店街が位置する池田市の概要】

池田市は、大阪市の西南部に位置し、市域面積は約22平方キロメートル、人口は約10万人である。大阪都心から電車で約20分で行くことができ、阪神高速道路などの幹線交通網で結ばれ、南には空港があるなど利便性がよい。

人口は調布市の約2分の1ではあるが、市域面積や都心へのアクセスなど、調布市と池田市には多くの共通点もある。

栄町商店街と石橋商店街は、池田市を代表する商店街である。

【学生による空き店舗活用事業の概要】

学生による空き店舗活用事業は、「池田市中心市街地活性化推進事業補助金」の補助対象の1つである。

池田市中心市街地活性化推進事業補助金は、中心市街地の活性化に資する事業を実施した場合に、団体に対して市が事業の経費を補助するもので、駅前マルシェや不動産マッチングなども対象となる。その中で、栄町商店街と石橋商店街は、学生による空き店舗活用の手法で補助を申請し、交付されることとなった。

栄町商店街では、関西大学や関西学院大学の学生を構成員とする学生団体が、石橋商店街では大阪大学の学生を構成員とする学生団体がそれぞれ活動している。

活動する学生団体には、それぞれ特徴がある。

栄町商店街で活動する学生は、商店街を地域貢献、ボランティアという場として捉え、事業を行っている。

石橋商店街で活動する学生は、市の担当者の印象では、どちらかというと商工振興の視点もあり、起業等の目線を持った学生が多いとのこと。商店街で行う取組では、実証実験や事業の検証を行うことがある。

【商店街と大学、市の連携について】

石橋商店街の場合、大阪大学の学生がゼミの一環で、石橋商店街

のパン屋の店主を取材したことがきっかけとなり、「石橋商店街にキャンパスをつくろう」という理念の下，学生と商店街，住民の交流が始まった。学生団体のメンバーは商店街の会議にも出席し，商店街の一員となっている。学生たちは商店街の行事に運営サイドとして参加し，店主たちも学生たちのイベントを積極的に手伝っている。

栄町商店街，石橋商店街共に，市の補助を受けて，商店街の中の1店舗を学生団体の拠点として賃借している。

石橋商店街では，活動する学生は拠点であると同時に，学生が近所の子どもたちを集めて勉強を教える場所ともなっている。

【事業実施の効果について】

池田市は，中心市街地人口が増加傾向にあり，栄町商店街，石橋商店街共に，空き店舗は少ない。空き店舗ができて，マンションに建て替わり，そのことで人通りが増えてにぎわい，消費の喚起という状況が生み出されている。

他の手法でも，消費の喚起やにぎわいを創出することは可能であるが，市としては，学生による空き店舗活用事業は，学生によるチャレンジショップ的な側面が貴重であり，商業者の育成，創出につながることで，将来池田市において創業，開業することを検討する機会の創出が重要と考えている。

【コロナ禍における商店街活性化策について】

コロナ禍により，イベント開催のような従来の手法での集客が難しくなっている。両商店街の通行者は激減した。

そのような中，石橋商店街では，地域内経済を循環させるバイロークルやICTの活用など新しい生活様式に沿った取組を行っている。例えば，大阪府商店街等モデル創出普及事業に採択された「石橋ねばぎばっキャンペーン」では，子どもが商店街で，はじめてのおつかいを行うイベントを実施し，動画をユーチューブで公開した。イベントで，初めて商店街に訪れた家族があったほか，動画の効果によって商店街のアットホームなイメージを発信できている。

【商店街の課題と目指す方向性について】

現在の商店街は大きく分けて、単独型、複合型、転換型の3類型がある。

単独型は、商業機能を中心に運営される、純粹な売買の場としての商店街をいう。

複合型は、地域のコミュニティ支援機能を併せ持つ商店街で、商業需要に加えて住民、近隣住民の様々な需要、サービスに対応して運営されるような商店街をいう。

転換型は、住民の来訪を待つ商店街ではなく、住民のもとに出向いて商業需要に対応していくような運営がされる商店街をいう。

複合型商店街は、商店街が持つコミュニティ機能に注目した商店街で、子育て支援や高齢者の見守りなど、交流する場として提供される。複合型商店街が成立する特徴として、住民のアクセスが容易であることが挙げられる。石橋商店街は、複合型商店街と言えられる。

これからの商店街は複合型、転換型を目指すことが商店街の振興の一般的な理論となっているが、全ての商店街が目指すべきかというところではない。

バーチャルの店舗では得られない、現実に存在している商店街でしか買えないもの、存在しないものを人は商店街に求めていると考えられ、それが石橋商店街の場合はコミュニティ機能であったに過ぎない。

市の担当者としては、栄町商店街は観光施設が多くあり、一般論に沿って複合型や転換型を目指さなくても、お土産や個性的な品など、そこにしかないものを売ることで、単独型商店街でやっていけるのではないかと考えている。

商店街が目指す類型については、当事者である商店街が決めるもので、行政が強いるものではなく、ふらっと出かけたくなるような商店街を、商店街が、各店主、住民、学生と共に目指していき、行政は相互支援を行うことが役割と考えている。

【その他】

池田市のダイバーシティセンター内にある会議室で説明を受けた後、石橋商店街を視察した。商店街の視察中、委員がそれぞれ市の職員に質問し、説明を受けるなどした。

— 石橋商店街にて —



7 その他
特になし

8 実施結果に対する所感，意見等
視察等個別部分報告書のとおり

第3号様式(第4関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	鈴木宗貴
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
① 名古屋市 なごや子ども応援委員会について ② 泉大津市 池上曾根遺跡及び史跡公園について ③ 池田市 学生による商店街空き店舗活用事業について		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
<p>① いじめによる自殺という事件を契機にした市長の強いリーダーシップによる事業は、常勤の専門職を学校現場に配置し、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー、活動を円滑に行うための庶務を行うスクールセクレタリー、元警察官であるスクールポリスのチームにより、1次の未然防止（ストレス、アンガーマネージメント、心の教育）、2次の早期対応、3次の特定ニーズに対して、チームで対応している。</p> <p>件数が増加する中で、身近な存在として子どもたちに認識してもらうために、朝の挨拶活動から参加するなど、カウンセリングのハードルを下げている。募集にあっても就労環境の良さから困る現状にはない。</p> <p>また、小学4年生と、中学1年生に対して、個別面談を行っている。</p> <p>名古屋市においては、中学校内に教室以外の居場所づくり事業を行うとともに、いじめ対策においては、名古屋グランパスの選手によるメッセージ放映など、啓発を図っている。</p> <p>インターネット上における対策については、ネットパトロールと24時間体制のSNS報告相談アプリ（スタンドバイ）を導入し、100%の登録となっている。しかし、LINE等についてはシステム上対応できないことが課題となっている。</p> <p>非常に多くの点で本市でも参考となる取り組みであった。</p> <p>② 昭和51年に国史跡となり、平成13年に第1期として全体の</p>		

第3号様式(第4関係)

1 / 3 を整備し、第2期として既存部分のリニューアルを含め全域をR8年5月の完了に向けて整備している。特に、文化財保護法の改正による、史跡公園の活用という点で、市民から要望の高いスケートボードパークの整備などを現在、文化庁と調整している。現在も、休日の農産物直売イベントは人気であり、整備後はキッチンカーによる賑わいの創出などを整備方針に入れている。

隣接する泉大津市と協働した取り組みとなっており、共に、ボランティアスタッフが、体験学習や清掃、花壇維持などに関わっている。

復元建物については、開設から20年を経て、劣化が激しい施設もあり、高額となる建設コストと維持を考えた整備の必要性を強く感じた。

展示（見せ方）については、自らの発見を知識に広げていく手法となっており、非常に充実していた。

また、市の組織体制においても、遺跡の活用に関心を注いでいることが見えた。

なお、第二期整備においては、ガバメントクラウドファンディングとして、手形を残す返礼品が用意されており、参加型の整備事業とすることも、鬼太郎広場同様、重要である。

下布田遺跡の整備にあたり、展示・体験及び活用について非常に参考となった。

- ③ 関西大学と関西学院大学による栄町商店街、大阪大学による石橋商店街と、2つの大規模商店街において、事業が展開されている。

視察した石橋商店街は、駅改札に直結し、細長いアーケードと広い道路がT字に交差する立地で、歴史ある商店街となっている。空き店舗自体は、現在、ほとんど無い状況にある。

大学の最寄り駅であり、下町感あふれる商店街において、学生がオープンイノベーション、テストマーケティングなど、ビジネ

第3号様式(第4関係)

スを専攻する学生にとって、やりたいことを実現する場所となっている。商店街においても、何かワクワクすることを学生とともに起こせることを期待している。この取り組みを通じて、卒業生が池田市で創業・開業するきっかけになることも期待されている。

商店街のホームページやYouTube動画配信においても学生が寄与しており、コロナにおいて活動は制約されていたが、アフターコロナにおいて、諸事業やイベントなどにおいて、学生の関りがどのように広がっていくかが注目される。

石橋商店街視察後、栄町商店街を訪問したが、こちらは広い通りの一直線のアーケードが2区画となっており、それぞれの個性を生かした取り組みが展開されている。

商店街の個性をどのように作っていくかを考える上で、参考になる取り組みであった。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

- ① 報告相談システムに導入について（スタンドバイは、企業、団体の職員向けでも導入されている）
- ② 遺跡公園の活用についての事例研究

第2号様式（第3関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	平野 充
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
【名古屋市】「なごや子ども応援委員会について」 名古屋市教育委員会事務局 新しい学校づくり推進部		
【和泉市】「池上曾根遺跡及び史跡公園について」 和泉市教育委員会事務局 生涯学習部		
【池田市】「学生による商店街空き店舗活用事業について」 池田市 市民活力部		
令和4年10月24・25・26日		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
○なごや子ども応援委員会について		
<p>名古屋市では平成25年に悲しい事故が起きたことの反省から、翌年以降、力を入れて、様々な悩みや心配を抱える子どもや親を総合的に援助するため「常勤」の専門職を学校現場に配置していました。</p> <p>スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・スクールポリス・スクールセクレタリー、そして令和2年度からはSCとSSW両方の資格を合わせもつ総合援助職の方々が揃っていました。</p> <p>市内110の市立中学校区に、市立高校14校、特別支援学校4校を加え、現在では12のブロックで構成し、毎月1回、それぞれのスタッフが一同に会し、委員会（会議・情報交換）を開催して子どもや親が抱える悩みに対処されていました。</p> <p>名古屋市は、SCやSSWスタッフの「常勤の職員に」という働き手への配慮に力が入っている。形としては、市が直接雇用する年度職員（1任期・5年）、更に総合援助職（主任総合援助職6人）の方々は、定年退職まで常勤職員として働ける形をとっていることは大事な視点であると感じた。</p> <p>安定した雇用（就職）は、優秀な人材が集まる重要ポイントであり、</p>		

採用の倍率も数倍～20倍の競争率があるほど、人気の職となっていることが、その裏づけとなっている。

(これら専門分野を学ぶ全国の大学院に募集をかけている)

不登校児童・生徒への支援としては、ネットパトロール（スタンド・バイというアプリ）を行い、委託された事務局となごや子ども応援委員会が連携している。また、条例に基づき、第三者委員会を設けている。

こうした取組みを行うも、現実として、不登校児童・生徒が増え続けていることから、「校内の教室以外の居場所づくり事業」を立ち上げ、校内に普通教室とは別に様々な工夫を凝らした学び部屋を設けて一人一人の状況に応じた学びの支援を始めていた。

全体を通して、特に感動したことは、支援の各分野のスタッフ職員と行政が一体となり、しっかりと横の連携をとりながら、月に一回、連携会議がなされていたこと。これは、各スタッフが様々なケースや課題を抱えながら忙しい中、なかなか出来そうで出来ないものだと感じた。

○池上曾根遺跡及び史跡公園について

弥生時代を通じて営まれた全国有数の大規模環濠集落。

和泉市の池上町から泉大津市の曾根町にかけて南北1.5キロメートル東西0.6キロメートル総面積60万 km^2 （遺跡中心部の11万5000 m^2 が国史跡に指定）

日本の歴史上、弥生時代の始まりが紀元前52年からと公表している裏づけのある発掘柱（樹木）の年輪調査を行った結果分かった。この環濠集落発見のきっかけとなったのは明治時代に現在の池上町に在住していた南繁則氏が自宅の土堀に紛れ込んだ石器（矢じり）・土器の破片を発見したことが機となっていた。

集落の中心部からは「くすのき」をくりぬいた直径約2mの井戸が見つかっている。（1994年）この井戸のある大型掘立柱建物は掘場所から500メートル移動した場所に学習館を設け、井戸や柱をそのまま移設し見学できるようにしている。あわせて、市内学校児童の研修としても活用されている。学習館の建築も手が込んでおり建築を学ぶ学生が学びにくることもあるとのこと。

令和8年にスポーツ施設との併設で、多くの人に見て頂く工夫を考え、ガバメントクラウドファンディングを用いて進められている。寄付の返礼として、整備の暁（完成時）には寄付者の手形を施設内に残すということも考えられていた。

史跡池上曾根遺跡の保存や活用に向けた整備には、何と云っても、その財源が必要であるが、大阪府からの（都道府県としての財源負担）交付は無く、国と市で行わなければならない、市に大きな負担が重くのしかかり、大きな課題でもあることが分かった。

○学生による商店街空き店舗活用事業

池田市は人口こそ調布市の半分程度だが都心からの位置などからベッドタウンとしての都市。市面積は調布とほぼ同じ。また、鉄道の駅は市内に二つ（阪急池田駅・阪急石橋阪大前駅）であることから商店街も大きく二つ存在する。

両商店街も大学通いの学生が豊富なため、若い青年の力を活かした空き店舗活用事業を行っている。本事業は「街の活性化」を目的に予算をつけている。

池田駅前の栄町商店街では主に関西大学、関西学院大学の学生がボランティア的に、商店街のお手伝いする形が多いのに対し、石橋阪大前駅の石橋商店街は大阪大学の学生が街のコミュニティ力の助けとなるよう、若者の発想を商店街が理解されクルル石橋と名づけられた空き店舗を活用し子どもたちへの学習支援やイベント企画なども行いながら、商店街の方々と繋がり、信用を得ながら、商店街の活性化に貢献している形は大変素晴らしいものを感じた。

現在、大阪大学OBの20代の方が商店街の事務局も務めていた。本業は、大阪商工会議所にお勤めである。大学を卒業してからも、知り合った商店街の方々のそばで、今でも役立つ存在として現役で頑張っていることに感動しました。

今の時代、利便性が発展したデジタル化など商店街の空き店舗も増える中、池田市が「人々の生活になぜ商店街が必要なのか」このことを常に問い続けながら、中心市街地の活性化を考えていく姿勢は大事な視点であると感じた。

視察中、私も考えてみました。商店街に行けば、

- 見たい顔（人）や看板など、ビジュアル的な感受がある。
- アナウンスや商店街独特の音がある。
- 食べ物など、いい匂いがある。

やはり、人間の心身とも健康にはリアルな人と人との携わりが必要であると思う。そういった目的をもとにした街の活性化は大事な事業であることを学んだ。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

特になし

第3号様式（第4関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	木下安子
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
<p>文教委員会視察 2022年10月24日 愛知県名古屋市 なごや子ども応援委員会について 同25日 大阪府和泉市 池上曾根遺跡及び史跡公園について 同26日 大阪府池田市 学生による商店街空き店舗活用事業について</p>		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
<p>●名古屋市 なごや子ども応援委員会について</p> <p><子ども応援委員会></p> <p>総合援助職（HP）、SC、SSW、スクールセクレタリー（SS）、スクールポリス（SP）から構成される。全市立中学110校と12に分けたブロックの拠点校にHPやSCを常勤職員として配置。相談や家庭訪問、見守り、学校への支援をはじめとした連携。R4年度予算額は約20億円。</p> <p>HPは子どもや保護者からの相談対応、関係機関との連携、情報共有など総合的な支援に関わる。R2よりSCとSSWの両方の視点をもって対応するHPに一体化。定年制に移行することで人材育成に時間をかけている。募集を広くかけて人材確保に努めており、倍率は4～5倍ある。12ブロック間の対応差を回避するために人事異動するようにしている。</p> <p>SSはブロック内の事務やブロック間、また学校との連絡調整などを担う。スクールポリスは元警察官が担当し、登校時などに見守り活動を担う。SCも朝のあいさつ時の見守りに参加をすることで、子どもに起きている異変に気付くこともある。ネットパトロールやSNS相談も実施しており、SNS相談は24時間体制に強化。SNSで相談が入ると子ども応援室、学校づくり推進室、SCなどが連携して対応にあたる。いじめ対策では条例にもとづいた第三者機関として設置している常設のいじめ対策検討会議もある。</p> <p><不登校生徒対策事業></p> <p>1. 校内の教室以外の居場所づくり事業</p> <p>新しい学校づくり推進室が所管。安心して学校で過ごせる空間づくりの取り組みとしての新規事業。名古屋市でも不登校児童生徒は増加傾向。教育機会確保法で休む権利を保障する観点が入り、学校を休むことへの社会認識が変わってきているが、行政として学びたいが学べない子どもへの対応として立ち上げた。登校はできるが教室に入れない児童生徒対応として空き教室を活用。正規、非正規の教員が対応。中学110校のうち30校で試験的に実施。愛知県内では岡崎市が先行しているが他に先例があまりない。登校時間、曜日も自由。担任と子どもとの対話など想定外の効果も生まれている。Wi-fiも整備してオンライン教材使用にも対応。効果としては、登校することで子</p>		

どもの生活リズムが整い、自信がつくことで明るくなってきていること、校内に居場所をつくることには色々な意見があったが、子どもの変化から教員の認識も変わり、理解が深まってきていることなどがある。子どもたちが「自分がいてもいい」と思える居場所が校内にあることへの肯定的な評価が広がっている。

2. オンライン教材による学びの保障

R4 年度より民間のコンテンツ（入札でリクルートのスタディサプリ）を導入。オンラインアカウントを配布後、家庭学習の取組み状況を学校が把握して評価。アカウント配布と出席扱いについて学校に周知し、Q&A を示すなど出席扱いの可能性についても積極的に情報提供している。

< 質疑応答から >

なごや子ども応援委員会は H25 年度の中学生の自死をきっかけに設置。アメリカでは各校に常任カウンセラーを配置していることを参考にした。子どもの課題が改善したケースは 6 割ほどある。

支援対象となる生徒が抱える課題の片鱗は進学前から見られているケースも少なくないが、現在小学校での支援には限りがあることが課題。予算面の負担も大きい。一般教員の国補助 1/3 に対し、SC などは対象外。

学校、警察、児相、区役所の民生子ども課との連携もある。子ども応援委員会の職員は要保護児童対策地域協議会にも出席し連携している。

< 所見 >

不登校生徒の居場所事業は、内容的には調布市のはしうち教室とかなり重なるが、地域の学校内に設置されている点で大きく異なる。はしうち教室のような居場所が各校に設置され、地域の中での孤立を防ぐことは、学校が担う地域の居場所としての機能を果たす上で重要な視点だと考える。現在調布市では空き教室がなく、メンタルフレンドやアウトリーチ事業で孤立を防ぐ取組みがされている。現在の条件下で可能な取組みとして評価しているが、今後の生徒数の減少に合わせて、岡崎市の校内フリースクールのような取組みと合わせて導入を提案していきたい。

オンライン教材と出席扱いについては、これまでも調布市に求めてきているが実現していない。近隣市での取組みも増えてきているので、引き続き、子どもたちの自己肯定感を上げるためにも、また多様な学びの形を増やしていくためにも、予算化含めて提案していく。

名古屋市心の支援の授業については、子どもの権利に関する授業も導入されているとの記載があったので質問をした。授業自体は応援委員会で複数のプランを持っていて、その中から先生と相談して提案してやっているとのことだったが、子どもの権利については委員会全体での共通認識とはなっていないようだった。

いずれの取組みも、子どもに正面から向き合い寄り添う職員の思いが伝わってきた。大人の思いを押しつけではなく、子どもの目線に立った支援が行

われており、子どもの権利の視点が感じられた。また、取組みの成果を通して教員もその意義に気づき始めているという点に大きな希望を感じた。調布市も子ども部署と教育の良い連携で、子どもの目線に立った取組みをさらに進められるよう働きかけていきたい。

●大阪府和泉市 池上曾根遺跡及び史跡公園について

1. 遺跡の概要

和泉市池上町と泉大津市曾根町にまたがるので、池上曾根遺跡という名称。2市が共同で管理している。池上町にある家で矢尻が見つかり、遺跡の存在が判明。当時は池上遺跡と呼んでいたが、泉大津高校の地歴部の顧問、森浩一氏との調査の中で広い遺跡だと判明した。敷地を大きな国道が縦断することになり、大規模な発掘をしたことでさらに規模の大きさが判明し、S51に国の史跡に指定された。整備のための発掘の中で大型建物も見つかった。

大型建物の柱の調査で年輪を調べたところ紀元前 C52 に伐られたものであるとわかったのも大きな発見だった。

2. 整備状況・計画策定・連携など

1995年に第1期整備。全体11.5haの1/3(約3ha)を整備して現在の公園の形になり、2001年にオープン。R1に文化財保護法が改正され、保存と管理から保存と活用に方向性が変わったことに合わせてR1から2年かけて保存活用計画を立てた。この地域には大阪府立弥生文化博物館、和泉市の史跡公園、泉大津市の学習館の3つの施設があり、活用計画は和泉市と泉大津市の共同で策定。さらに再整備計画も策定した。

観光部門と連携することで、例えば多言語看板はそちらの部署に予算取ってもらって作成。散歩する人が多いので、スポーツ振興担当部署との連携もある。

3. 今後の展望

R8が史跡指定50周年、史跡公園開園25周年、和泉市制70周年など重なるので、未整備部分を含めたりリニューアルを目指している。2022年度、基本設計と実施設計中。来年度から工事開始、R8年度に完了予定。

4. 地域の魅力向上、地域の魅力発信場所としての遺跡活用方法

泉大津市と連携した展示やイベントをおこなったり、史跡公園をイベントに貸したりしている。キャラクターのコダイくん・ロマンちゃんは「大型建物と井戸が見つかった衝撃で現代にタイムスリップした」という設定だが、今や市のキャラクターになっている。実は衣装と髪型が古墳時代のものなのが残念だ。

公園は常時オープンしているが、安全面、防犯面などで課題はある。今後は、指定管理も検討する中で使用時間の制限も検討している。一方、ランニングコースの設定など、市民が使いやすいよう他部署と連携して活用方法を

考えている。歴史の授業が始まる6年生などにも活用してもらいたい。

< 所見 >

最寄り駅を降りてから学習館までの道のりには、和泉市の担当職員が自ら手描きしたという象形文字のようなデザインが施されたタイルが並んでおり、途中立ち寄った泉大津市の学習館に行く道程も楽しめるようになっていた。泉大津市の学習館においても、このデザインが使用されており、両市の連携が伺われた。学習館では、引き出し型の展示や衣装体験など、体験型の学習館にしたいという職員の思いが、思わず手を伸ばしたくなる工夫となって学習館の端々に散りばめられていた。予想通りにいかなかった面もあったようだが、思いのある担当者に任せ、失敗も受け止める空気があるのか、担当職員が生き生きとしている様子が非常に印象的だった。

活用計画も二市の共同で策定するなど、遺跡そのものの規模が大きいということもあるだろうが、職員自身が専門知識と情熱を有していること、また市境を超えて周囲がそれを評価し、積極的に取り組む職場環境や連携体制があるように感じられた。今後の公園整備についても、市民が幅広く楽しめる多目的広場としての機能を充実させるため、国との交渉に臨もうという前向きな姿勢が感じられた。今後の展開に期待したい。

また和泉市では、コロナ対策としての国からの給付金活用の一つとして、市民に一律3000円を配布する形を3回実施し、市民からも好評とのこと。全体的に市民の生活に密着した事業展開をしている自治体との印象を受けた。引き続き注目していきたい。

●大阪府池田市 学生による商店街空き店舗活用事業について

池田市は「こと始めのまち」と言われており、ダイハツや日清があり、小林一三が住んでいた街。昼夜間人口が高めで大阪国際空港がある、都心部へのアクセスが良いなど調布とも共通点がある。

栄町商店街と石橋商店街で行われている学生による商店街空き店舗活用事業には、池田市独自の補助金が出ている。空き家活用対象の補助金ではなく、駅前マルシェやフォーラムなど、中心市街地の活性化に繋がる取組みなら何でも対象となる「中心市街地活性化推進事業補助金」である。市から詳細は指定していないが、たまたま両方の商店街から上がってきた案が学生による空き店舗活用だった。

< 栄町商店街と関関 COLORS について >

土地、建物を所有している事業者が多く、ゆっくりと商売をする傾向が強い。関関 COLORS は商工、商売よりも地域貢献や地域活性を目指しており、子どもを喜ばせたり、店主を応援したりすることを目的としたボランティアの場として活動している。

< 石橋商店街 >

阪大生が通学で通る位置にあり、店舗数が多い。近隣住民が対象の商店街で、道の狭さが賑わいにつながっている。石橋 x 阪大（通称イシハン）の活

動の拠点になっており、学生が商店街の一員という感じがある。商売、商工の色があり、事業、起業、チャレンジショップなどを目指す学生もいる。活動の拠点となっているクルル石橋のイベントは実証実験的なものも多く、店主も応援している。店主を事業のパートナーと捉えている点が栄町と異なる。消費と賑わいに加え、学生によるチャレンジショップの側面が3つ目の効果を生み出しており、起業者、開業者の育成の場にもなることが期待される。

<今後の展望>

S48～H26 にかけて大型店舗の立地規制の緩和が進んできた経緯の中で、売上げを上げるためのハード面の整備やイベントへの支援が行われてきた。H18には選択と集中の観点からモデル創出の限定的支援に切り替え、さらにR1以降はインバウンドなど新需要やコロナ感染症対策といった新しい要素も加わってきた。

今後の商店街のあり方については、人口減少、規制緩和で増加する大型店との競合、電子取引の普及への対応が課題。商店街にはもはや商業機能が求められていないという現状を前提として、「リアルな場」としての商店街についていくつかの可能性が示された。

1つ目は、昔ながらの商業機能単独型。2つ目は、地域コミュニティ支援機能との複合型商店街への移行。子育て支援、高齢者の見守りやふれあいの場ともなるため、近隣住民が足を運びやすい立地であることが重要。その条件を満たしている石橋商店街で行われている、大学生による学習支援「いしばし寺子屋」は良い例である。3つ目として、商店が住民の元に出向くデリバリー型。この場合、商店街という場所の意味合いはどうなるのか？という疑問は残る。

調査によると、商店街では日用品のシェアは減少傾向だが、飲食店のシェアは増加している。また、商店街に求められる機能は「その場でしか体験できないもの」とも捉えられる。栄町商店街は周辺に観光スポットが点在しているので、こういった視点を合わせ、カップラーメンミュージアムと各商店のチキンラーメン創作料理のコラボ事業を実施している。

商店街に求められるものは個々の商店街で異なる。それを追求する主体は商店街であり、行政が強いるものではないが、支援をするのが行政の役割であるとの認識が結論として示された。

<所見>

商店街の今後の展望は全国的に大きな課題となっている。当然、各商店、また商店街の自主性に委ねられる部分が多く、将来的な展開についても行政が強制するものではない。しかし、池田市の2つの特徴的な取組みが生まれるきっかけとなった中心市街地活性化推進事業補助金のような仕掛けは、行政側からの働きかけの一つとして有効だと感じた。

石橋商店街のイシハンの活動は、今でこそ非常に特徴的な取組みとして注目されているが、元メンバーの説明によると、活動が商店街から受け入れら

れるには 10 年以上かかったという。当初は、若者の尖った、理解不能な活動と受け止められ敬遠されがちだったが、活動を重ね、次第に市民権を得るうちに、商店街の方では今後の展開が課題としてより明確に認識されるようになり、積極的に活動を受け入れていく流れが生まれた。新しいことにチャレンジするエネルギーをもつ若者が昔ながらの商店街で市民権を得て、新しい風を吹き込み、商店街の存続と新しい展開に寄与する可能性を拓くには、行政からの補助金制度という仕掛けは有効だろう。

調布市でも若い世代のクリエイターやアーティストが集まる商店街が生まれている。また、特色のある大学も市内にあることから、それぞれの商店街が特色を生かしつつ、こういった若者の力も活かして未来への展望を開いていけるよう、行政からの支援策について提案していきたい。また、池田市の視察においても、担当職員が思いを自由に語る姿が印象的だった。職員が情熱をもち、事業に専念できる職場環境に必要な諸条件についても研究していきたい。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

2 に記載

第3号様式（第4関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	澤井 慧
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
<p>文教委員会行政視察（令和4年10月24日～26日）</p> <p>①愛知県名古屋市 『なごや子ども応援委員会について』、『不登校生徒対策事業について』</p> <p>②大阪府和泉市 『池上曾根遺跡について』</p> <p>③大阪府池田市 『学生による商店街空き店舗活用事業について』</p>		
<p>2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）</p>		
<p>①名古屋市では平成25年にいじめが要因だとされる市立中学生の転落死によって、若く尊い命が失われるという事態が発生してしまったことを契機に、学校、家庭、友人関係、地域とのつながりなど今まで以上に多様化・複雑化する中で、教員だけでなく様々な専門的知識・経験を持った職員が連携し組織的な支援体制を整えることを目的として、平成26年に「なごや子ども応援委員会」が設立された。なごや子ども応援委員会では、従来のSCやSSWの業務を一体化した総合援助職を配置しより広い視点から総合的に子どもの効果的な支援を行っている。また、調布市には配置されていない職として、スクールセクレタリー（SS）と呼ばれる庶務事務担当者やスクールポリス（SP）という元警察官が学校内外の見守り活動を行っており、必要に応じて警察との連携を図っている。本委員会はスクールカウンセラーは常勤であり、チームでの活動や横の連携を大切にし、全職員が毎週集まり情報共有や研修の開催等お互いを高めあい、問題の未然防止に向けて取り組まれている。調布市においても横の連携や情報共有の強化によって多角的な視点から児童生徒を見守る体制整備が重要だと考える。</p> <p>インターネットやSNS上のいじめ対策としてネットパトロールを専門業者に委託している。スタンドバイというアプリを使用し不適切な書き込みを発見した場合は委託業者から教育委員会に報告があり、学校にも共有してい</p>		

る。一方で、昨今増加している教員のわいせつ事件などに起因する LINE を利用した児童生徒と教員のコミュニケーションについては課題がある。

不登校生徒対策事業では安心して学校で過ごせる取り組みとして、校内の空き教室を利用して居場所を作っている。不登校というと本市の不登校特例校であるはしうち教室が想起されるが、校内での居場所作りは異色である、また、不登校生徒への学びの提供として本年度からリクルートが提供するスタディサプリを導入している。

都内では北区でスタディサプリの導入事例がある。スタディサプリは不登校生徒だけでなく、学習塾の役割を果たすことが出来るため、家庭の事情で塾に通えない家庭においても、一人一人に学習速度に合わせて進めることが出来るため、本市でも導入検討の余地があると考える。

②大阪府和泉市にある池上曾根遺跡弥生時代を通じて営まれた全国でも有数の大規模環濠集落である。これまで発掘調査されたのはわずか 25%程度であり、今後の調査でも新たな発見がなされる可能性が高いとされている。本遺跡の本質的な価値を将来に伝え守り抜くため、和泉市教育委員会と泉大津市教育委員会が弥生情報館と弥生学習館を連携して運営している。両施設は魅力ある学習の場として小学生の歴史の授業でも利用され、当時の文化について、見たり・聞いたり・触れたりと五感をフルに活用し体験ができる。余談だが、匂いについては当時はみんな臭かっただろうという事で、匂いは控えました、との事。また隣接する史跡公園は遠足や市民によりイベント開催、観光資源としての魅力や地域の誇りとして発信し、今後の展望として、史跡指定 50 周年、史跡公園開園 25 周年、和泉市政 70 周年と節目の年である令和 8 年を目標に「人々が集う、憩う、学ぶ、そして育つ池上曾根遺跡」の実現を目指して整備事業も進められている。

今回ご案内頂いた職員の方の専門性が高く、非常に思いをもって本事業を構築されていることが分かった。多くのご苦勞もあったことだが、歩いて汗を流し、多くの賛同者を得られている。

調布市では国指定重要文化財として下布田遺跡が存在しており、令和 3 年 3 月に史跡下布田遺跡整備基本計画が策定された。一方で観光資源や学びの場として活発に活用されているとは言い難いのが現状である。下布田遺跡につ

いても市民に愛され、多くの方が当時の歴史文化に触れることができるよう整備体制を整えることを期待したい。

③人口 10 万人の大阪府池田市には大きく 2 つの商店街（栄町商店街・石橋商店街）がある。大阪の中心である梅田駅から電車でおよそ 20 分。伊丹空港からほど近く、空港特別会計があり、財政状況は極めて安定している。今回視察した石橋商店街は石橋阪大駅直結で東西 500m、南北 250m の長さで 200 以上の店舗が並んでいる。アーケードがあり、何となくちょうどよい狭さで、学生や主婦、おじいちゃんおばあちゃんに賑わっている。空き家店舗の活用として視察に行ったが、実際は空き家店舗はほとんどなく、賑わいは維持されているのが現状である。

石橋商店街では阪大で通称イシハンとして活動している。店舗も人も固定化されている商店街において学生の新しいアイデアを実現するためのテストマーケティングの場として活用されていることや、学生と商店街が一体となって商店街や地元を盛り上げていこうという、大型店舗や複合型施設ではできない思いが商店街にはある。

一方、今回視察の対象ではない栄町商店街は「関関 COLORS」というボランティア団体で関西大学と関西学院の学生が地域主体の街づくりや地域活性化のサポート役になる」ことを目指して活動している。イシハンとは対照的に子どもなどを対象としてイベントやスクール事業を展開しており、ボランティア活動としての要素が強い。

これらの活動には市の「中心市街地活性化推進事業補助金」が活用されているが、これまではアーケードの設置や店舗の改修等ハードウェア中心だったが、イベントへの支援や新たな事業支援などソフト面での補助金に方向転換した。

池田市に限らず、調布市においても商店街は年々縮小傾向にある。大手スーパーマーケットがある中で、生鮮食品や衣料用品、日用品などをわざわざ商店街に買いに行く人は減少している。では、商店街の存在意義とは何なのか。それはまさに商店街でしか得ることの出来ないものが求められている。他では食べることができないもの、ネットスーパーでは購入することができないお土産や個性的な品、その場でしができない体験や雰囲気など、そこでしか

ないものを扱っていく商店街こそが今後の市内商店街の活性化につながる
カギになる。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	丸田 絵美
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
愛知県名古屋市 なごや子ども応援委員会について		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
<p>子ども応援委員会として、総合的に援助をするため、(1) 常勤でのスクールカウンセラー (2) 多職種 (3) チームというのが特徴で、子どもたちの生活を支援している。はじめは一人のカウンセラーから始まる。</p> <p>16 行政区を 11 ブロック（中学校区）＋高校に分け、各ブロックに 1 校事務局校を設置。SC と SSW の業務を一体化し、より広い視野から子どもたちを総合的に援助する HP（総合援助職：Helping professionals）を配置。HP または SC を 110 校全校に常勤フルタイムで配置し、スクールポリス・スクールセクレタリーをブロックごとに 1 名配置。週一回程度ブロック会議を行い、情報共有やケース検討会議などで、役割分担、個別、または複数での事案解決へ繋ぐ。市内を 3 方向に分け、常勤の HP，SC，SSW が一堂に会し、専門的な議論・協議・研修等によりスキルアップを図り、それぞれの学校に持ち帰っている。</p> <p>先生は教育の専門家だが心の専門家ではない。SC は先生方の相談にも乗ってくれる。勤務地は中学校だが、地域の様々な社会資源や各組織との連携を取り、子どもにつなげ、家庭訪問も行うという、アクティブな仕事でもある。相談件数も 2695→41604 へと増加。これまで支援につながらなかった子どもたちを支援へと繋いでいる。</p> <p>名古屋市は、ナゴヤ子ども応援大綱「一人ひとりの人生の基盤としての理念」に基づく支援を推進している。また、教員に加え子どもを守る専門家の学校への配置を推進し、人生を生き延びるスキルを子どもたち自ら考え、学ぶ環境づくりを推進している。これらに基づき、不登校未然防止及び不登校児童生徒支援の方策を策定。8 つの方策で①魅力ある学校づくり②教職員の意識改革③なごや子ども応援委員会・学校と専門機関等との連携④校内の教室以外の居場所づくり⑤訪問相談、対面指導、アウトリーチ支援⑥子ども適応相談センター拡充⑦民間団体（施設）との連携⑧ICT を活用した学習支援である。</p>		

教室復帰について質問をしたところ 30 校で 280 名が利用、その中で 30 名が復帰したという。課題はそれなりに沢山あり、小学校の支援体制は非常勤のスクールカウンセラー。「どう支援につなげるか、どんな支援が必要か」が課題であり、補助制度はあるが、財源確保が難しいのが現状。独立性が確保された第三者機関として設置した子どもの権利擁護機関と積極的に連携・協力を全庁挙げて取り組んでいるが、「子どものために」という具体的な方法はどのようなものがあるか、また、どんどん増える利用希望者の待機状況をどう解消していくのか。さらに課題は山積みとなっている。

いじめ対策事業については、子どもたちが「自ら」いじめをなくすという意識の高揚が重要で、ポスター・シール・フラッグ等を作成。社会全体でいじめ根絶を目指すよう機運を高める。幼児・児童・生徒がそれぞれ主体的に考え。行動するための取組をその年齢に合わせた生命尊重の豊かな心をはぐくむ取り組みを行う。（悩みを 1 人でかかえこまない児童生徒を育てる）

相談事業については、カウンセリングへのハードルが高いというイメージがあり、利用自体を躊躇しているということも聞くことから、小 4・中 1 のすべての子どもとの面談を実施している。（問題の）芽が小さいうちに徹底的に対応していく。

SNS やネット上での対策についても、ネットパトロールとして児童生徒に関する問題のある書き込みとの検索・監視・削除依頼の対応は 22 時まで行う。また、子どもからのいじめ等の報告相談については、スマートフォンやタブレットからワンタッチで専門機関に直接いじめの報告相談ができるアプリの導入により（小 4 から高 3 対象）24 時間 365 日対応している。その際アクセスコードで学校や学年がわかるようになっている。

LINE は便利だが閉鎖した。ネットパトロールでも子どもたちの監視はしにくい。しかし水面下のやり取り以外でも、気になる点は共有している。さらに、子どもたち自身には、ネットモラルに対する指導を行っている。

いじめの早期発見、第三者委員を置くことにより連携を取りながらの速やかな措置・対応。スクールカウンセラーらによる相談・支援体制。教職員・スクールカウンセラー等の資質向上など、チームならではの速やかな連携を期待できる。

このような取り組みも、名古屋市の子どもの命が残念ながら失われたとい

う経験が市全体を突き動かして進んできた。これらの事業から何を成果としてとらえるのかという意見もあったが、数字上とらえられるものではない。これまでに、案件が6割解消されてきたことを一つとらえ、これを増やしていきたいと考えている。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

名古屋市の子ども応援事業は、常勤の職員による総合援助職（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー）・スクールセクレタリー・スクールポリスを1チームにして、網目を張り巡らせて子どもたちや保護者を総合的援助するという取り組みであり、先生への支援も含めて非常に前向きで素晴らしいことと考えるが、予算面だけでなく、担当する人の個々の資質や働き方など、課題がたくさん見えているのが現状であると感じた。多忙で重い責務を抱える職員であることは間違いない。働き方改革という側面からも、人材の活用方法には「情熱」の一言では済まないものがある。

常勤採用になり、採用倍率も4～5倍に増加しているのは、常勤という安定性にあるものと考えられるのだろうが、人材の確保や選任、また、全校で差異がないような工夫とそれによる異動を含めた人事的な配置、組織全体の中での取り組みとなるが、自治体の負担についても大きいと感じる。

名古屋市という政令市ならではの先進的な取組ではあるが、子どもを守り、育てていくということはどの自治体においても課せられている大きな役割であることから、本市においても考え方や取り組みについては参考にして今の時代を子どもたちが乗り越えていける後押しのできる環境整備につなげたい。

視察等個別部分報告書	作成者氏名	丸田 絵美
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
大阪府 和泉市 池上曾根遺跡及び史跡公園について		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
<p>南北 1.5 kmにわたる、弥生時代後期に最も栄え、集落中心部には弥生時代最大級の大型堀立柱建物とくりぬき井戸が発見された。はじめは池上遺跡となったが、その後広範囲に広がっていることがわかり、また、隣接している泉大津市曾根町にもまたがっていることから正式名がつくときには池上曾根という名前となった。昭和 51 年 4 月に、集落中心部約 11.5ha が国の史跡に指定された。</p> <p>平成 31 年の文化財保護法の改正により、令和 2 年度に泉大津市と共同で保護活用計計画を策定。令和 8 年を目途に「人々が集う、憩う、学ぶ、そして育つ池上曾根遺跡」の実現を目指し、令和 4 年度より整備事業を進めている。多言語・看板設置など、部署連携をしながら整備に取り組んでいる。</p> <p>泉大津市立池上曾根弥生学習館では「見る、聞く、におい」といった体験を重視しているが、見る・聞くはある程度再現できるが、「におい」は再現が難しい。太古の人たちは、現代よりもっと生死・清濁が身近であったと考える。近くにある府立博物館とは、各種イベントや連携事業を行うことが多い。現遺跡公園内で実際に見つかった大型堀立柱建物の遺跡は、500m 平行移動させて、現学習館の敷地内に移設し、保全展示している。柱の穴や木材などを冷房管理していて、ガラス張りの床越しに上から見ることができる。また、出土品の配置など、展示方法にも工夫を凝らしている。学習館本館では、建物も壁一面を探検気分で見ることができる引き出しにしてみたり、壁の模様を地層に見立ててみたり子どもたちに興味を持たせる仕組みとなっている。また、壁が外壁までフルオープンになり、子どもたちの学習やイベント等に対応できるような作りとなっている。遺跡公園は広大で、大型堀立柱建物やくりぬき井戸、竪穴住居などの建物の復元を設置してあるゾーンは見学当時も犬のお散歩やマラソンの人などもいて、憩いの場にもなっている。ほか、まだ敷地内には活用できていないスペースも多く、今後スケボーなど市民からの要望が多いスポーツ等にも活用予定。また、コンサートも</p>		

行ったことがある。(例えばボーカルが調布市出身のめめちゃんが所属するケラケラ。和泉市のPR大使だそう。)

小学校の遠足や課外授業の受け入れを行っており、市内の小学6年生は歴史授業の一環として利用している。

遺跡公園の大型堀立柱建物の復元には、太い柱がたくさん必要であった。その調達に職員が心血を注いだという熱い話が聞けた。「この太さこの長さの材木が必要なんだ！」と訴えた時には、何をもったいないことをなどといわれたこともあるが、クオリティーを追求する必要など担当者の熱意・熱量によって、多くの市民が動いてくれたという。職員の強い思いに、特に地元の地主さんや山主さんなど市民が動かされることも多いのだと思った。

今回は和泉市のみでの訪問であった。当該遺跡は和泉市と泉大津市にまたがっていることから、互いに連携を取りながらの事業ということであったが、やはり難しいこともあるようだ。自治体間の差価値観の重点の違いもわかり、公園と道路等まちづくりの問題もわかり、さらには庁内の理解を得ることもまた同様であるようだ。

職員の意欲で大きく前進しているが保護活用計画を定め、整備事業を推進しているとはいえ、職員の異動や、担当となる個々人の考え方や方針によって左右されないよう、後進の育成も重要な課題と考える。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

調布市にも遺跡公園として保護計画策定中の国指定史跡下布田遺跡があり、国指定重要文化財をはじめとした貴重な出土品が出ているが、住居跡は出ていない。先日、近隣の別の場所から遺跡が発掘され、そちらからはたくさん住居跡が見つかった。遺跡公園には住居跡の保存展示についても、必要ではないかと感じている。また、その場所からは銅の色が残ったまま出土された銅鐸などの貴重な資料も出土しているが、保存のための処理を行いそのまま東京都へ移管された。市では郷土博物館が所管するが、現在の郷土博物館では施設の性能やキャパシティーなどの現状から、所有し、保存展示するには任が重すぎるというのは否めない。

市は、予算の都合もあろうが整備計画の促進を行うべきである。

視察等個別部分報告書	作成者氏名	丸田 絵美
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
大阪府池田市 学生による商店街空き店舗活用事業について		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
<p>「市民活力部 賑わい戦略室」このネーミングに、行政としての意気込みを感じ、まずグッときた。池田市は、大阪都心部から阪急宝塚線で約 20 分、ほか、国道や阪急高速道路などの幹線交通網で結ばれた、調布と近い環境にある住宅都市部である。人口は 10 万人で平成 22 年以降減少傾向にあるという。市内には阪急池田駅と阪急阪大前駅があり、両駅とも商店街が存在する。市は中心市街地活性化に資する事業を行う団体に対し補助事業を行っており、両商店街とも助成制度を活用してそれぞれ学生と連携した空き店舗活用事業を行っている。</p> <p>商店街と学生の関係や連携方法、かかわり方については差異があるものの、学生ならではのアイデアや活動については、両商店街とも一目を置いて、今や学生は商店街の一員となっている。石橋商店街×大阪大学の方は、下町情緒あふれる昭和レトロな感じの商店街において、イベントを数多く共催し、商店街と学生との交流が深まるにつれてすることで、強い関係性が培われてきた。商店街は空き店舗を改装したコミュニティスペースを学生たちに開放し、学生たちはオープンイノベーション・テストマーケティングの場として、やりたいことを実現できる場所、起業疑似体験の場となっており、活動の拠点として近所の小中学生が学校の帰りに立ち寄り、阪大生が勉強を教えるといった居場所づくり、近所の子どもたちを集めての合宿でお金について学ぶなどの体験をするなど、商工と地域活性化とを結びつけた活動を行っている。商店街としても、行事やまつりに学生を巻き込むことで活発に行うと同時に、店主たち自体も学生主催のイベントに対して積極的に支援している。コロナ禍において卒業式が行われなかった時も、商店街には「卒業おめでとう」の表示が大きく出され、商店街と阪大生との絆の強さ示された。当日説明に駆けつけてくれた元阪大生の方も「ここに関わったからこそ」と、卒業後も池田市の商工会に残り、商店街の活性化と学生の活動を支援している。当商店街は、駅前アーケード街の狭い空間にあり、それが商店街の風情</p>		

を作り上げているが、再建築は不可であり火災や震災等消防が頭を悩ませる部分も大きく、災害時の対応が懸念されている。

一方栄町商店街の方は、関西大学×関西学院大学「関関 COLORS」として、栄町商店街を拠点に商工振興・地域活性化を目的として活動する、学生サークル的なもので今年 10 年目。商店街について、地域貢献の場とする考え方が大きく、「商工≒地域活性化」という傾向にある。駅から商店街は徒歩 3 分程度。一番街と二番街の 2 区画にわたる長い商店街である。近隣にカップヌードルミュージアムなどがあり観光施設への来訪者が多い。飲食店やお菓子店などでは、そういった企業とのコラボ商品が多数提案されている。

栄町商店街は、池田市民が店主であることも多く、賃貸物件が少ないのが特徴であり、その分池田市の 2 商店街では空き店舗数は少なく、商店街に空き店舗ができると。マンションに建て替えられることも多いそうだ。住民が増え、帰宅ついででの購買が増えると「にぎわい」「消費」という視点では変わらないが「小売商業の蓄積」という視点では衰退しつつある。

両商店街とも、学生による空き店舗活用は「中心市街地活性化のための補助金」活用として、両商店街が選択した事業である。例えば学生抜きでイベントを行っても、にぎわいの創出や消費喚起といったことは達成できるが、学生を入れることでさらにチャレンジショップという側面が生じ商業者の育成や将来的に卒業生による創業・開業につながることを期待できるという狙いもある。

「複合型商店街」は、IoT 技術の発展等により、地方圏を含め利便性は向上しているが、幸福度は下がっている中、人口減少下において、地域コミュニティを支える存在として他者とのふれあいや交流の場（子育て支援・高齢者見守り等）を提供する商店街をいう。目指すべき方向はこちらかとも思ったが、ただ、その商店街それぞれが特性を生かしたまちづくりをすることが重要で、みんなが同じ方向を向いていなければならないということではない。当事者であるそれぞれの商店街が独自にカラーを出し、住民・学生・商店が活躍できるよう、行政としては「後押し」をすることが一番重要であるという結論であったと思う。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

2 の本文中に記載

